

# おてら

## 秋彼岸法要会

先祖への供養は私への供養

九月十九日～二十五日

二十二日(火・祝)

彼岸中日法要

午前十一時より

今回はおときを中止致します

十九日(土)

永代経法要

午後七時より

お彼岸中にお墓参りをしましょう

ご本尊様にもお参りいたしましょう

常例十六日講  
毎月十六日午後一時より  
お経練習・法話会  
写経会  
毎月第二・四火曜日  
午後一時より

### 疫癘の章

住職 蒲原 霊英

人類の歴史は疫病との戦いの歴史です。本願寺八代蓮如上人(一四一五～一四九九)がご在世の頃も七年間疫病が流行し、さらにその間、飢饉、大雨や大風といった天災も続き、多くの人が亡くなりました。現代のように原因も分からないので、宮中では種々の祈祷が行われ、改元も行われました。

丁度その最中に、上人が記した「疫癘(疫病)の章」という『御文章』(各地の門徒に宛てて、浄土真宗のみ教えを分かりやすくしたためたお手紙)があります。その中で、「最近、疫病が蔓延して大勢の人が亡くなっている。これは疫病が原因で亡くなったのではない。生まれたことにより死は起こっている。これは疫癘である。だからそれほど大きく驚くことではない」と述べられています。生という「因」により死という「果」が起こり、あくまで疫病は「縁」でしかなく、まさに、生老病死という仏教の根幹を成す教えが簡潔に表されています。上人は、目の前の現実に翻弄される人々に、厳しい言い方かもしれませんが、極めて冷静に普遍的な人の「いのち」の道理を説かれました。

これだけ科学や医療が発達した現代においても、今、新型コロナウイルスに翻弄されている私たちに、この上人のお言葉はストレートに突き刺さって来ます。マスコミは執拗に不安を煽るばかりで、真実を報道しません。データを見れば、国内で新型コロナウイルスで亡くなった方のほとんどが高齢者で、その平均年齢はほぼ日本人の平均寿命と同じです。また、実はインフルエンザでの死者数や餅での窒息死の数の方が多いのです。この事実を直視すれば、最後の、いわゆる死因とされる死に直結される「縁」は新型コロナウイルスだったかもしれないが、別の「縁」で亡くなった可能性も高いと考えられます。結局は、生という「因」から始まる「いのち」が、様々な「縁」を頂いて、死という「果」を迎えて終わったというだけに過ぎないのです。

であれば、過度に心配して恐怖におののく必要は無く、正しく怖がれば良いのです。目の前にどのような事が起きようとも、あるがままに頂いて、唯々懸命に自分のやるべき事をやり、成すべき事を成し、丁寧に、楽しく、日暮らしを送る。その積み重ねが、「いのち」を生きたることです。そしてまた、支えてくれている多くの「いのち」があつてこそ私の「いのち」であるという真実、頂いた「いのち」を生かささせていただいているという真実を、決して忘れてはなりません。この真実に感謝しながら、「果」である死まで、己の「いのち」を精一杯生き切ることが、南無阿彌陀仏のお念仏の教えなのです。合掌

